

「時事英語研究」シラバス

学科	普通科	学年	3 年	類型	I 型	組	1 組	単位数	3
使用教科書	CNN Comprehensive Trainer 2026 (朝日出版社)								
副教材等	英単語ターゲット 1900 6 訂版 (旺文社) Vision Quest 総合英語 3rd Edition (啓林館) Next Stage 英文法・語法問題 4th Edition (桐原書店)								

1 学習の到達目標

① 最新の英語ニュースを通して、海外の様々な話題に関する英文を読み、国際的視野を広げ諸問題について考えるとともに、総合的で実践的な英語力を身に付ける。
② それぞれのトピックについて、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ディベートなどの言語活動を取り入れることで、表現力を高め、自分の意見を積極的に発表しコミュニケーションを取ろうとする態度を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により、観点別評価と 100 点法の評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深め、実際のコミュニケーションにおいて、場面や状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けているか。	(5)(6)(7)(8)(9) (10)(11)(12)
思考・判断・表現	目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で話し手や書き手の意図や考えを的確に理解したり、自分の考えや気持ちをまとめ、積極的に伝えたりしようとしているか。	(5)(6)(7)(8)(9) (10)(11)(12)
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。	(1)(2)(3)(4)(5)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1)ペアワークやグループワークへの参加状況 (2)教師の質問に対する応答	
課題などの提出状況	(3)週末や長期休業中に指示する課題 (4)日々のプリント	
言語活動の観察	(5)スモールトーク等の会話 (6)プレゼンテーション (7)ライティング活動	
インタビューテスト	(8)口頭テスト (9)音読テスト	
ペーパーテスト	(10)定期考査 (11)小テスト	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	News 1 Art-ificial Intelligence	・ ロボットアーティスト Ai-Da の作品がオークションにかけられた背景について学ぶ。	(9)
	News 2 Retaking Control	・ インスタグラムが 10 代のアカウントに機能制限を導入した経緯とその是非について話し合う。	(8)(9)
	News 3 Debilitating Heat	・ 地球を覆う過酷な暑さが人体に与える影響について考える。	(7)(8)
	News 4 Antiaging before Aging	・ 化粧品に夢中のアルファ世代、「セフォラキッド」について学ぶ。	(6)(8)
	News 5 A Blessing Marred	・ 悲惨な戦時下で生を受けるガザの赤ちゃんを取り巻く環境と抱えている問題について考える。	(8)(9)
二 学 期	News 6 Flawed Roadmap	・ 学生ローン地獄にあえぐ米国のミレニアム世代が置かれている現状とその影響について話し合う。	(6)(8)
	News 7 Pets Preferred	・ 中国の若い世代に広まる新しい家族観について考える。	(7)(8)
	News 8 Energy Waiting to be Tapped	・ 火山大国アイスランドのクリーンエネルギーを活用した研究について学ぶ。	(6)(8)
	News 9 Toward Early Diagnosis	・ 期待が高まるアルツハイマー病治療の最前線と今後の展望について考える。	(7)(9)
	News 10 The 2024 Problem Arrives	・ 物流の「2024年問題」と時間外労働の規制の関わりについて考える。	(8)(9)
三 学 期	News 11 Dispossessed	・ インドネシアでニッケル採掘が加速している現状を知り、豊かな土地や住民生活が受けている影響について学ぶ。	(6)(8)
	News 12 Controversial Cleanup	・ サンフランシスコで相次ぐホームレスへの厳しい取り締まりとそれがもたらす影響について考える。	(7)(9)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(10)(11)については、全ての単元において評価項目として用いる。